

国際的な動き



10YFP —持続可能な消費と生産10年計画枠組み—



私たちの社会を持続可能に変えるために、大きなインパクトを持つのが、消費と生産です。持続可能な消費と生産(SCP:Sustainable Consumption and Production)への取り組みを強化するため、SCPの10年計画枠組み(10YFP)が採択され、国際的に、その推進に向けた活動が進められています。

「持続可能な消費と生産」を巡る国連での議論

- 1992年** 国連環境開発会議(地球サミット)アジェンダ21「消費形態の変更」:
「持続可能な消費と生産(SCP)」が今日の課題の原因として認識される
- 2002年** 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク・サミット)ヨハネスブルク・サミット実施計画:
「持続可能な生産消費形態への転換を加速するための計画に関する10年間の枠組の策定」を推進することが明記される
- 2003-11年** マラケシュ・プロセス:SCP推進に向けた、ヨーロッパ・アフリカ諸国の主導によるプロセス
- 2012年** リオ+20(国連持続可能な開発会議):SCPの10年計画枠組(10YFP)が採択される

持続可能な消費と
生産10年計画枠組みの
6つのプログラム

- 持続可能な公共調達
- 消費者情報
- 持続可能な観光・エコツーリズム
- 持続可能なライフスタイルと教育(SLE)
- 持続可能な建築・建設
- 持続可能な食糧システム

持続可能な
ライフスタイルと
教育(SLE)

日本(環境省)は、スウェーデン、世界自然保護基金(WWF)らと共に、持続可能なライフスタイルと教育(SLE)のプログラムをリードしています。

SCPクリアリングハウス



SCPクリアリングハウスは、SCPに関する情報が世界中から集められるプラットフォームです。世界の国や地域、企業やNGOなどから、数多くの知識や情報、経験が共有されることが期待されています。

<http://www.scpclearinghouse.org>

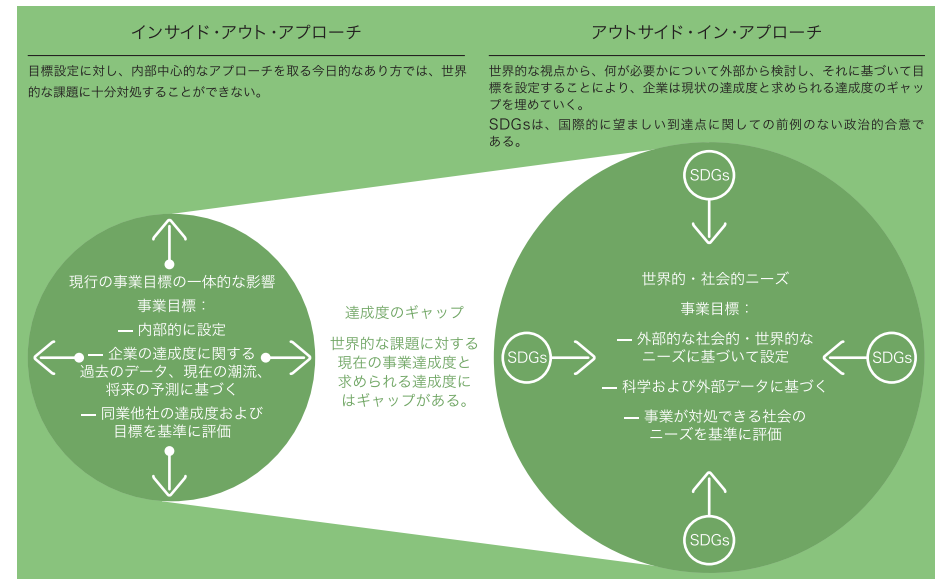
SDG Compass



民間企業が持続可能性に及ぼす影響は大きく、ビジネスによる自発的な取り組みが求められています。SDG Compass(コンパス)は、各企業の事業にSDGsをもたらす影響を解説し、企業が持続可能性を戦略の中心に据えるための情報と知識を提供するガイドラインとして、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、GRI(Global Reporting Initiative)、WBCSD(The World Business Council for Sustainable Development:持続可能な開発のための経済人会議)により、共同で開発されました。

世界的な視点から自社事業を見つめ直す

今までのような社内的な観点だけではなく、世界的視点から、社会ニーズや社会に及ぼす影響を前提に事業を考えることが求められています。



(SDG Compass 日本語訳より)

事業プロセス全体から持続可能性の課題を探る

企業には、自社事業の及ぼす影響をバリューチェーン全体から考え、持続可能性に向けた取り組みを図ることが求められます。例えば、消費者がエネルギー消費を減少させ、関連の温室効果ガス排出量を削減できるような自社製品を開発・提供するといった「正の影響の強化」や、サプライヤーと連携して、水資源の不足している地域における水使用量を削減するといった「負の影響の最小化」といった、さまざまな貢献が期待されています。